

令和元年度第1回肝炎対策推進協議会 議事録

令和元年9月6日 18時15分～19時30分
奈良県立医科大学臨床医学研究棟1階大会議室

<議題>

(1) 肝炎対策事業 平成30年度実績・令和元年度の取組概要について

(主な質疑応答内容)

- <委員> 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業については、患者会の悲願であった。厚生労働省の予想では奈良県で95名とのことだったが、新規認定が5名で極めて低い。医療費助成が8件となっているが、延べ8名分の医療費助成をしたということか。事業拡大を願っているが、認定の条件が厳しい。指定医療機関の指定について奈良県は頑張っている。新潟県で認定件数が多いが、人口比で言うと奈良県が遅れているというわけではない。
- <事務局> 全国的に件数は低いと聞いている。認定が5名で、延べ8名の医療費助成をした。
- <委員長> 厚生労働省も全国的に実績が低いことから、かさ上げをしようとしている。事業の周知をしっかりとしていくことが大事。肝炎医療コーディネーターも増えているので、そういう人達を使って増えるようにできればよいと思う。奈良県は医療費助成実績が全国的に少ないと言われている。奈良県はC型キャリアの人の割合が全国より高い。検査受検率が低い点については改善していきたい。

(2) 肝疾患に関する専門医療機関、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の指定医療機関について

(主な質疑応答内容)

- <委員長> 奈良県は独自に中核専門医療機関を設けて取り組んでいる。

(3) 肝炎ウイルス検査受診率向上事業について

(主な質疑応答内容)

- <委員長> 枚数を増やすことができればよいが、予算に限りがある。前回、県内で受診券を均等に分けたところ、検査を実施した所としなかった所があった。今年度は、昨年度に検査を実施した医療機関に受診券を事前配布し、より効率的にできればと思う。他府県では、普段通っている医療機関で受けることができると受検率が上がっていると聞いている。限られた予算で受診券を配分できればと考えている。
- <委員> 昨年度は111機関に協力していただいたが、医療機関から、「どなたに適用するか迷った」、「以前に検査している人を調べるのに手間取った」など聞いている。昨年度検査をした医療機関に配るということでよいと思う。医師会でも広報活動に取り組みたい。
- <委員> 事前に配布した枚数より多く使用した医療機関には、他の医療機関の分をまわしたのか。65医療機関は使わなかったということか。
- <事務局> 途中で受診券の使用状況を調査し、使用していない医療機関から受診票を回収し、事前配布より多く配布したところもある。
- <委員> 昨年度実績のある医療機関以外に希望する医療機関に配布することは難しいだろうか。
- <事務局> 現段階での案なので、医師会と相談し、柔軟に対応していきたい。
- <委員長> 他の医療機関でもやっていただければいいのなら、その方がよい。柔軟に対応してほしい。

・市町村での受診率向上の取組について

- <委員> 葛城市では、個別・集団検診とも肝炎ウイルス検査を自己負担無料で実施している。集団検診には、受けることが可能なものがすべて受けられる「おまかせコース」を設定しており、特定健診と同時に肝炎ウイルス検査を受けることができる。昨年度は42件、令和元年7月現在で81件である。集団検診は年1回で9日間を2回、市内の10医療機関で実

施している。肝炎ウイルス検査に関する市民の認識不足と PR 不足が課題と感じている。自分には関係ないと思っている人が多い。未受診者への取組が大事。集団セット検診の受付時に無料でできる肝炎ウイルス検査をすすめている。

<委員長>本年度も改善していけたらよい。

<関係者>市町村の検診について提案がある。景品等のメリットがある「健康ポイント」をつけているところが多いが、肝炎ウイルス検査にポイントを設けているところは少ない。ポイントを設けてもらえると受診率が上がるのではないか。

<委員長>考えていただければと思う。

<委員>奈良市には保健所があり、特定感染症検査等事業と健康増進事業の2つの事業がある。従来2つの窓口でやっていたが、平成30年度から窓口を一本化した。特定感染症検査等事業では医療機関への委託をすすめ、平成30年度は保健所の検査を合わせると712件であった。医療機関への委託事業は、身近な医療機関で受けられるのがよい。特定健診と合わせて無料で受けられると広報した。また平成30年度は年度始めにテレビで取り上げられたことにより、出だしが多かった。

<委員長>奈良市は人口も多い。今後も取組をお願いしたい。テレビ等マスコミの影響は大きい。テレビや新聞を効果的に使っての周知にも取り組みたい。

(4) 肝疾患診療地域連携体制強化事業における拠点病院の取組について (拠点病院から報告)

(主な質疑応答内容)

<委員長>肝炎医療コーディネーターも増えている。奈良県では薬剤師が多いとのこと。さらに肝炎医療コーディネーターを増やしていきたい。臨床検査技師が勤務している病院の陽性者を知らせているところもある。アンケート結果を見ても、まだまだしっかり周知できていない。市民に広く啓発していくことが大切。「知って肝炎プロジェクト」の表敬訪問も奈良県はまだだが、来られていない所は少ない。様々な取り組みを進めたい。

<その他>

・患者委員からの要望について

(主な質疑応答内容)

<委員>奈良県では、「重症化予防推進事業における肝炎ウイルス検査または健康増進事業の肝炎ウイルス検診において陽性と診断された者」という独自の条件をつけている。また、治療後の経過観察中の者を含まないとしているのはなぜか。

<事務局>まずは優先すべき対象から取り組み、フォローアップに同意した人を対象としてすすめている。対象者を治療後の人にも広げるよう予算要求に向けて努めたい。

<委員>患者会でも治療後の者が2人いる。県独自要件を外してもらいたい。県にリーフレットの送付にご協力いただきたい。

<事務局>郵送代の予算がなく、送付できないが、協力できるところは協力したい。